＜全体集会発言＞　　大阪自治労連　三木さん

皆さん、こんにちは。大阪自治労連の三木と言います。

　本日は、実は僕ではなくて、枚方市の学校で特別支援学校へ通う、障害をもっているお子さんたちの学校生活を直接援助する介助員の端野さんという方が、報告するということだったんですけども、このインフルエンザの関係で、断念されたということなんです。彼女は木曜日までは、「ぜひ発言したい」というふうに言われたんですけれども。木曜日に実は「京都でインフルエンザの感染者が出た」と公式発表されて、それがマスコミに流れて、その公表を受けて、断念せざるを得なかったということを言っています。

　彼女は私にお詫びと同時に、こういうことを話してくれました。「私の仕事は、子どもたちと直接関わるし、ましてや感染症に対して免疫力、抵抗力が弱い子どもさんがほとんど、そういう職場であると。私は、そういうお子さんを目の前にして、介助するプロとして、感染者が出たと発表された場所に行くわけにはいかへん」と、「／／」というふうにおっしゃっていました。私はこの彼女の思いを聞いて、あらためて実際の最前線で仕事をしている、非正規労働者の仲間の力強さ、それから、公務労働に携わる責任の重さというのを、再認識させられました。　若干パンフレットに載っている広告と違ってきてしまうんですけども、このインフルエンザ、先週末から兵庫県、大阪市、大阪府ほんとうにたいへんでした。大阪府でも、感染者が出た茨木市中心に豊中、吹田、大阪市など、いち早く学校を、それから保育園とか幼稚園とか、福祉施設なんかを閉鎖した１週間だったんですけれども。

　実は私、３月まで、吹田の学童保育の指導員をしていまして、４月から大阪自治労連で専従をさせてもらっているんですけれども。「吹田の状況どうなっている？」って指導員の仲間に聞いてみました。吹田の学童の指導員は自治体の非常勤職員なんです。そうしたら、「日曜日の午後から、緊急で出勤しました」と。「『明日から、学校が休みになるから、学童保育も休みですよ』という連絡を電話で各家庭にした」と。月曜日からは現場に出勤しまして、というのは現場は、管理職も、市の正職もいないものですから、結果的に現場の責任者は非常勤の職員なんですけど、で、現場の責任者として、月曜日から出勤して、市から支給されたマスクを着けて、業務にあたると。

　その業務の内容なんですけれども、間違って子どもさんが来た場合に、「今日は来たらあかんねんで」と帰したりとか。あとは日曜日中につながらなかったご家庭に電話で連絡したりとか。あと火曜日からは各家庭に電話して、「お子さんの状況どうですか」とか。あと、／／の熱が出てるか出てないかってそういう状況なんか、健康状態とか。

　あと障害をもっているお子さんも預かっていますので、そのお子さんと保護者の方、府の橋下知事が言うには「１週間自宅待機」というか、「行動を自粛してくれ」ということで、そういう家庭が１週間、家の中に閉じこもるというのは、すごく負担なところなんで、「状況どうなっていますか」というふうなことも、火曜日から電話連絡などでしたそうです。

　それで非常勤が出勤している一方で、実は６カ月とか、３カ月とか１カ月ごとに配置が決められている、時間給で働いている臨時指導員がいるんですけれども、その方は「１週間仕事休み」と市に言われまして、休まざるを得ないという状況になっています。

　その他に、職員のわが子が保育園が閉まって、学校が休みになって、どこにも預ける先がなかったという場合は、休まないとしょうがないと思うんですけれども、そういう場合にも、年次有給休暇で取ると、そういう状況になりました。

　やっぱり、そういう労働者に直接負担がかかる部分にして、市は何ら保障をしていないということで、要求書を提出したということです。大まかな内容なんですけれども、少しだけ紹介させてもらうと、労働組合員として、自治体職員として、住民の命と健康を守る自治体の役割を担うために、協力を惜しまないけれども、市民に対してまず正確な情報提供を徹底すること。それからできるだけ早く住民の生活機能を通常に戻せるように、国や府に働きかけること。それから３番の、先ほども問題に挙げたんですけども、臨時職員の賃金保障です。これも５月ってゴールデンウィークに入って、時間給で働いている人は、仕事がないとほんとうに生活がたいへんなんで、このことも訴えました。あと最後に、年次有給休暇でなくって、こういう事態は特別休暇を与えるべきだと、そういう４点を要求書に挙げさせてもらいました。これがどのように解決されるかというのは、まだこれからなんで、わかりませんので、またわかり次第お知らせしたいと思います。

　発言の６分、まだしゃべりたいこと３分の１も言ってないんですけど。ほんとうは端野さんが、枚方の非常勤裁判の経過とか今後について発言する予定だったんですけども。それはまたレポートで後日提出させてもらうとして、そうやって触れさせてもらいます。

　今、自治体で働いている非正規は50万人と言われています。この50万人の皆さんの仲間の年収はいくらだったかというと、ほとんどが200万円以下、250万円以下で働かされています。その中でも先ほどの橋野さんが僕に話してくれたこととか、吹田の指導員が緊急でそういう対応に追われているということ、そうやって自治体の最前線で非正規の仲間が頑張っています。そういう彼らが少しでも働き続けられるための、賃金、労働条件の保障を訴えていくために、また運動を続けたいと思います。

　最後なんですけれども、一自治体職員として今日の大会への参加を取りやめた端野さん始め、きっと同じようにそれぞれの責任で参加を取りやめた非正規の仲間が多くいると思います。また、今日同じ思いで集まった皆さんに対して敬意を表したいと思います。公務労働者、民間労働者の壁を越えて共に頑張りましょう。以上で終わりたいと思います。（拍手）